

午後 I 試験

問 1

問 1 では、銀行システム再構築におけるシステムソリューションの選択について出題した。題意や状況設定は、おおむね理解されているようであった。

設問 1 では、事業戦略の実現を阻害する事項を問うた。(1)では、経営再建後の売却可能性に関する解答を期待したが、“システム再構築でのカスタマイズ費用が掛かる”のような売却可能性の観点が含まれない解答が散見された。(2)では、事業戦略の実現をどのように阻害するのかまで踏み込まず、カスタマイズの必要性にとどまった解答が見られた。

設問 2 では、設問に記載された要素の他に考えられる理由を問うたが、コストや優先度といった設問の記載要素と同趣旨の解答が散見された。

設問 4 では、現行システム構築事業者に依頼する見積り事項を問うたが、“現行システムの再利用”を採用した営業店系システムに関してだけの解答が見られた。現在の各情報システムからのデータ移行に対しては現行システム構築事業者の協力が必要であることにも気付いてほしい。

IT ストラテジストは、経営戦略に基づいた情報戦略や情報化計画の策定・提案をする能力を高めてほしい。

問 2

問 2 では、小売業でのリフォーム事業の拡大戦略における新たな業務要件の策定について出題した。一部の設問で題意や状況設定を十分に理解できていないと思われる解答が見られた。

設問 1(1)は、訪問調査の際にリフォーム担当者が新たに実施すべきことを問うたが、正答率は低かった。店舗へ見学に来た客への対応ができない場合があるという現状の課題を踏まえた上での具体的な施策に気付いてほしい。

設問 2(2)は、工事期間中に工事を管理する際に施工責任者がリフォーム担当者と共有する情報について問うたが、“リフォームの仕様”など工事を開始する前に共有しておく情報に関する解答が見られた。

設問 3 は、施工事業者選定システムで施工業者が実施すべきことについて問うたが、正答率は高かった。題意はおおむね理解されているようであった。

IT ストラテジストは、業種ごとの事業特性を反映して IT を活用した事業戦略の策定を支援し、新たな業務要件を定義する能力を高めてほしい。

問 3

問 3 では、地域の洋食レストランの競争力向上について出題した。全体として正答率が高く、題意や状況設定はよく理解されているようであった。

設問 1(2)は、ピーク時におけるテーブル回転率の向上策を問うたが、ボトルネックとなっているちゅう房の負荷の軽減を想定しない解答や、調理効率の向上など具体的な内容を記述しない解答が見られた。

設問 2(2)は、ピーク時におけるホールスタッフの業務改善の内容を問うたが、ホールスタッフがオーダーを受けるときに行うべきことを考慮せず、ちゅう房での調理手順に関する解答が見られた。

設問 3 は、二つの解答のうち、当日のメニュー変更をレストラン紹介サイトに反映する仕組みについては、正答率が高かった。しかし、“レストラン紹介サイトの管理画面の使い方をスタッフに教える”といった準備事項の解答も見られ、レストラン紹介サイトの予約情報と店の予約管理表を同期させる仕組みについては、正答率が低かった。2 か所に分散した情報を同期することの必要性に気付いてほしい。

IT ストラテジストは、経営戦略・事業戦略を実現するための事業運営の方法、IT の活用方法について、経営者に対し、事業上の課題に則して提案する能力を高めてほしい。

問 4

問 4 では、建設機械の新機能の開発について出題した。題意や状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問 1 では、市場調査の分析について解答を求めた。正答率は高く、よく理解されているようであった。

設問 2 では、新たな機能の検討について解答を求めた。(1)では、後からソフトウェアを追加することによって機能の向上を図る機能について解答を求めた。おおむね理解されていたが、新たな建設機械の基本動作となる機能を記述した解答も一部に見られた。

設問 3 では、事業計画について解答を求めた。(2)では、シミュレーションシステムのモードの特徴をよく理解できていない解答が多く見られた。

市場の動向を分析し、自社の状況と方針を把握した上で、新機能提案、事業計画策定ができる IT ストラテジストとしての能力を高めてほしい。